

巻頭言

公益社団法人 日本放射線技術学会
東北支部副支部長 豊嶋 英仁

第6回東北放射線医療技術学術大会の開催に際しまして、皆様より多大なるご支援ご協力を賜りましたことを心より感謝を申し上げます。本大会は第54回日本放射線技術学会 東北支部学術大会と平成28年度日本診療放射線技師会 東北地域学術大会の合同開催でした。参加登録数は、新潟県を含む東北7県に加えて、関東圏からの参加者も加わり503名と大変多くの方々に参加していただき、成功裏に開催できました。

本大会では近未来を見通して今を究めることを託して、大会テーマ『今を究める Feel the Future 』を掲げました。一般研究発表では137演題と大変多くの応募をいただき、大会テーマが日頃の学術研究の成果に結びついて喜ばしく感じております。

この大会では、“究める”を特別講演とシンポジウムのタイトルに含めていただきました。特別講演では「脳虚血を究める」と題して秋田県立脳血管研究センター 副センター長 木下 俊文先生に講演を賜りました。深みある画像と切れのある読影に引き込まれ、会場内は時間を忘れて聞き入っていました。シンポジウムでは「診断参考レベルを究める」と題して、総論に続きCT、一般撮影、マンモグラフィ、血管撮影、核医学の5分野から講演・討論を行っていただきました。DRLs 2015の考え方、そして各分野の現状と課題について理解が深まった内容でした。診断参考レベルは今後も見直しが継続されますので、目の離せないテーマです。

医療被ばく低減に関しては、東北地域診療放射線技師会企画「医療被ばく低減施設認定について」並びにハンズオンセミナー「被ばく線量を知ろう！被ばく線量推計ソフトを用いた実践セミナー」が開催されました。診断参考レベルが注目され、今後、一般市民にも知識が浸透することが予想されるなかで、これらは関わりの深い企画になりました。被ばく低減施設認定は宣伝効果を生む可能性があります。また、自施設の線量を知るには専用ソフトを用いることが簡便な手段です。今後も継続が期待されます。

JSRT国際戦略委員会&東北支部企画「英語プレゼンテーション支援セミナー」では、熊本大学大学院 白石順二先生、金沢大学医薬保健研究域 田中 利恵先生によるセミナーが開催されました。内容は、英語との上手なつきあい方、研究発表スライドのグローバルデザイン、伝えるための英語プレゼンテーション。このような企画に参加して少しずつ英語に親しむコツを学ぶことが起点になると思います。

学会発表のサポートと論文化のコーチングを目指すハンズオンセミナー「Wilhelm Camp (ウィルヘルムキャンプ) —hands on training—」は、例題英語論文を読んで内容をプレゼンする企画で開催されました。このような実技の繰り返しが、英語の上達につながるものと思います。日本放射線技術学会は表立って英語発表を推進しておりますが、日本診療放射線技師会も同様な考え方です。今後も英語発表を意識した企画を継続することが大事であると思います。

その他では、テクニカルミーティング6部門、ランチョンセミナー5題、機器展示19社を企画しました。会場全体がほどよくまとまり、企画全体を通して参加者には有益な時間を提供できたのではないかと考えております。大会の準備・運営にはたくさんの方々にご尽力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

この大会は開催県の特色が加わって開催されますので、次回の青森開催が楽しみです。皆様、今度は青森でお会いしましょう。